

令和元年 第6回 当別町教育委員会定例会議事録

日 時 令和元年10月16日(水) 午後2時00分
 場 所 役場中会議室
 出席者 本庄教育長、武岡教育長職務代理者、寺田委員、小林委員、佐々木委員
 出席職員 山崎教育部長、北村学校教育課長、山谷学校教育課参事、石川社会教育課長、
 須藤子ども未来課長、佐々木学校教育課主幹、三浦社会教育課主幹、小川子ども未来課主幹、
 玉木総務係長、高島学校教育係長、米内学校教育係主査、木村給食センター係長、
 飛山文化財保護係長、栄木子育てサポート係長
 傍聴者 なし

【開会の宣言】 教育長	ただ今、委員全員出席しておりますので、これより令和元年第6回当別町教育委員会定例会を開催致します。
【議事日程】 教育長	日程につきましては、各委員に配付しています日程表により議事に入ります。
【日程第1】 教育長	日程第1、報告第1号を上程致します。 提案の説明を求めます。 教育部長。
教育部長	(提案の説明) 只今、議題となりました報告第1号平成31年度全国学力・学習状況調査報告書の作成につきまして、提案の説明を申し上げます。議案の1頁、別冊の1～25頁をご高覧ください。 この度、当別町の調査分析結果を報告書にまとめましたので、委員会に報告するものです。 よろしくご審議をいただきまして、ご承認をお願いいたします。 なお、詳細につきまして、学校教育課参事から説明いたします。
学校教育課参事	ご説明申し上げます。別冊の1～25頁「平成31年度全国学力・学習状況調査報告書」をご高覧ください。 始めに3頁です。本調査の目的、対象学年、内容等を掲載しております。当日は小・中学校合わせて208人中199人が参加したところではあります。 次に、4～12頁が小学校の分析となっております。始めに、学力調査についてご説明申し上げます。4頁上段をご高覧ください。「教科ごとの平均正答率と平均正答数」ですが、2教科(国語・算数)の結果を掲載し

ております。次に、下段「全国平均を基準（100）とした場合の領域ごとの正答率」は、領域別の比較一覧表とレーダーチャート化したものを掲載しております。

次に、5頁上段をご高覧ください。「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合」も、各領域の比較一覧表とグラフ化したものを掲載しております。

次に、中段「教科ごとの結果概要」をご高覧ください。始めに【国語】では、全国平均より高い結果となりました。領域別では、全ての領域で高い傾向です。特に「書くこと」が全国を大きく上回っております。下位層の割合は、全国よりも少ない状況にあり、学力の底上げが見られる結果となりました。次に【算数】ですが、【国語】と同様に全国平均より高い結果となりました。領域別では「図形」が高く、「量と測定」が低い傾向にあります。下位層の割合は、全国よりも少ない状況にあり、学力の底上げが見られる結果となりました。

学力が底上げされている要因として、5頁中段【学力の底上げ】という箇所に、6点掲載いたしましたので、ご高覧ください。まず1つは、当別町独自で小中一貫教育推進講師をはじめとした人材を確保し、指導に当たっていること、2つ目に、新学習指導要領に対応した授業改善を早期から積極的に進めていること、3つ目に、小学1～2年生の低学年の段階から学習規律の徹底化を図っていること、4つ目に、安心して学習できる学級づくりを行っていること、5つ目にICT機器を活用して、効率の良い授業を行い、振り返りの時間を確保していること、6つ目に、家庭学習の定着に向けて、学校と家庭・地域が連携した取組を進めていること、以上6点を要因として捉えております。

次に、下段をご高覧ください。「改善策」についてですが、【国語】では、授業改善チームを活用した授業改善や家庭と連携した読書習慣の定着を進めます。【算数】では、少人数、習熟度別などを取り入れた授業方法を工夫し、理解の遅い子のみならず、理解の早い子への支援を手厚く行うことや、国語と同様に、授業改善チームを活用した授業改善を進めます。

【授業全般】では、全教職員が「カリキュラム・マネジメント」の必要性を理解し、日々の授業等が教育課程全体に繋がる教師の授業力向上のための校内研修の実施やメンター研修の実施による若手教師の授業力、生徒指導力の向上、「主体的で対話的な深い学び」アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善を積極的に進めることが重要と捉えております。

次に、6～12頁の児童の生活習慣や学習環境等に関して、ご説明申し上げます。調査項目の結果を全国と比較し、「優位な項目」と「改善が必要な項目」に分け、特徴的な項目について掲載しております。

始めに、6頁「国語の学習について」の上から3段目「国語の授業で学

習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」との問いに「当てはまる」と回答した児童は69.8%と全国と比較して5.6ポイント高い状況です。これは、国語の授業において、子ども達の「学びに向かう力」が育成されていることの表れと捉えております。

次に、7頁「算数の学習について」の上から1段目「算数の勉強は好きですか」、3段目の「算数の授業の内容はよく分かりますか」、「優れた項目」の1番下段の「算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか」との問いに「当てはまる」と回答した児童は、全国と比較して高い状況です。教員が授業改善に取り組んできた成果であると捉えております。「改善が必要な項目」では、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」との問いに対する答えが、全国平均より低い状況です。児童の「学びに向かう力」を育成できるように、自主的、自発的な学習が促されるように、授業改善に取り組むことが必要であると捉えております。

次に、8頁「家庭学習について」は、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童が、全国より高い傾向です。一方で、「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目が、全国より低い傾向です。この項目により、家庭学習の定着が進んでいる一方で、学習時間が短いことがうかがえます。生活習慣の改善と合わせて、学習時間を増やすことに繋げていくことが必要であると捉えております。

次に、9頁「基本的な生活習慣について」は、「毎日、同じくらいの時間に寝起きしていますか」との問いが、全国より低い傾向です。学校と家庭が連携し、基本的な生活習慣づくりが必要であると捉えております。

次に、10頁「指導に関わる項目について」は、上から6段目「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の項目で高い数値が出ております。子ども同士で、自由に話し合いのできる学級づくりができているものと捉えております。

次に、11～12頁「その他について」です。12頁をご高覧ください。上から4段目の「学校のきまりを守っていますか」との問いが、全国より低い傾向です。規範意識が低下傾向にあることから、ルールを守る指導の徹底が必要であると捉えております。

次に、13～24頁が中学校の分析となっております。始めに、学力調査からご説明申し上げます。13頁上段「教科ごとの平均正答率と平均正答数」、その下「全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率」、14頁上段「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合」については、小学校と同じ様式のもを記載しております。

次に、14頁中段をご高覧ください。「教科ごとの結果概要」についてですが、【国語】では、全国平均より高い結果となりました。領域別では、全ての領域で高い傾向です。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国を大きく上回っております。下位層の割合は全国よりも少ない状況にあり、学力の底上げが見られる結果となりました。次に、【数学】ですが、【国語】と同様に全国平均より高い結果となりました。領域別では、全ての領域で高い傾向で、苦手とする領域がないことがうかがえる結果となっております。下位層の割合は全国よりも少ない状況にあり、生徒間の学力差が小さいことを示す結果となりました。次に、【英語】ですが、全国よりも高い状況にあり、授業の取り組みの成果が表れていると捉えております。領域別では、全ての領域において高い傾向で、特に「話すこと」が全国を大きく上回っております。下位層の割合は全国よりも少ない状況にあり、生徒間の学力差が小さいという結果となりました。

小学校同様に学力が底上げされている要因を、中段【学力の底上げ】という箇所に掲載いたしました。内容は小学校のものとはほぼ同じですが、特徴的なものとしては、2つ目、小学校と中学校の9年間を見通した教育課程を編成し実施しているという点、小中一貫教育推進講師が小学校と中学校を行き来しながら、小学校においては、中学校段階の学習を意識した指導を行い、中学校においては、小学校で学んできたことを土台としながら指導を行っていること、3つ目、教師力向上のために、小中合同研修を実施していることが、今回の成果の要因となっていると捉えております。

次に、「改善策」についてですが、全体を通して、小学校と中学校で研究テーマを統一し、共有化が進んできております。小学校と同様に「主体的で対話的な深い学び」の実現に向けたアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善を積極的に進めることが重要と捉えております。

次に、15～24頁の生徒の生活習慣や学習環境等に関して、ご説明申し上げます。こちらも小学校同様に特徴的な項目を掲載しております。

始めに、15頁をご高覧ください。「国語の学習に関して」の「改善が必要な項目」、上から1段目「国語の勉強は好きですか」、2段目「国語の勉強は大切だと思いますか」との問いが、全国と比較して低い結果となっておりますので、教員の授業改善が課題であると捉えております。

次に、16頁「数学の学習について」です。「優位な項目」の「数学の勉強は好きですか」、「数学の授業の内容はよく分かりますか」の問いが、全国より高い数値となっております。授業において生徒の興味・関心を引き出していることを示しており、今後もこのような授業を継続して実践して欲しいと考えております。

次に、17～18頁「英語の学習について」です。17頁「優位な項目」の1段目「英語の勉強は好きですか」、4段目「英語の授業で学習したこ

とは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」との問いが、全国より高い数値となっております。子ども達が学びを人生や社会に生かそうとする力が、育成されてきていることを示しております。教員の授業改善を進め、子ども達の「学びに向かう力」の育成を加速していくことが課題であると捉えております。

また、5段目と6段目「英語を聞いて、英語を読んで、概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」との問いが、全国より高い数値となっております。子ども達の「聞き取る力」、「読み取る力」が、育成されていることから、教員の授業改善を進め、子ども達の「外国語理解の能力」の育成を加速していくことが課題であると捉えております。

次に、18頁「改善が必要な項目」の3段目「スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか」との問いが、全国より低い数値となっております。新学習指導要領の「英語で表現したり、伝えあったりなどする力」の育成が課題であることを示しており、授業改善を早急に着手する必要があると捉えております。

次に、19頁「家庭学習について」は、「改善が必要な項目」の2段目「学校の授業以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。」が全国より低い数値となっております。キャリア教育を行い、目的を明確にした学習に取り組ませる支援が必要であると捉えております。

次に、20頁「基本的な生活習慣について」は、どの項目も全国より低い傾向です。規則正しい生活習慣づくりを啓発する必要があるため、学校と家庭・保護者が連携し、基本的な生活習慣づくりが必要であると捉えております。

次に、21～22頁「指導に関わる項目について」です。始めに、21頁「優位な項目」の2段目「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」との問いが、全国より高い数値にあります。教師が生徒に学習内容を分かるまで丁寧に教えていることが分かります。また、このことが着実に成果となって表れていることを示しております。一番下段「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」との問いが、全国より高い数値となっております。学級内で問題が生じたときは、自主的に話し合いで解決していく風土が根付いていることに繋がり、生徒が安心して学びあえる環境づくりを行っていることを示していることから、このような子ども達の活動を広めていくよう支援していきたいと考えております。一方で、「改善が必要な項目」の1段目「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」、一番下段「道徳

	<p>の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか」との問いが、全国より低い数値となっております。話し合い活動が重要であることから、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業に積極的に取り組んでいく必要があると捉えております。</p> <p>23～24頁「その他について」です。23頁をご高覧ください。「優れた項目」の6段目「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」との問いが、全国より高い数値となっております。さらに自己肯定感を高めるための取り組みを支援する必要があると捉えております。一方で、「改善が必要な項目」の3段目「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」との問いが、全国より低い数値となっております。失敗を恐れずに何事も挑戦する心の育成を図る取り組みが必要であると捉えております。</p> <p>最後に、25頁「当別町学力向上プラン」ですが、中段に「具体的な方策」を掲載しております。学校においては、「アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業の工夫」のほか、9項目の「やるべきこと」、教育委員会においては、「小中一貫教育の一層の推進」に向けた「努めること」を記載しており、学校と教育委員会が協力、連携し、子どもたちの「学ぶ力の向上」に向けて邁進していくこととしております。</p> <p>本報告書につきましては、本日の委員会でご承認をいただいたのち、ホームページで公表します。また、学校からも同様に公表する予定となっております。</p> <p>簡単ですが、報告書の説明といたします。</p> <p>以上です。</p>
<p>教育長</p> <p>武岡代理</p>	<p>ただ今、提案説明がありました。ご質問等はございますか。</p> <p>大変わかりやすくまとめていただき、ありがとうございます。</p> <p>まず、感想を申し上げます。以前も話に出ていたことかと思いますが、今回の結果は、下位層の子どもたちの学力が底上げされたことが大きいのかなと感じており、全ての学校に特別支援教育支援員等の職員を配置したことにより、個別指導が充分に行き渡ったことが大きな要因ではないかなと捉えております。</p> <p>また、「教師の授業力」について、多く挙げられていましたが、今回の結果を見る限りだと、英語や数学の先生の教え方が上手なのではないかと感じています。反対に、国語では課題がある様子なので、国語において教師の授業力を上げるために、研修活動をしっかり行ってもらいたいと考えています。校内研修も重要ではありますが、限界があるとも思いますので、外部の研修をより受けられるように予算を措置するなどの、工夫をしてい</p>

<p>学校教育課参事</p>	<p>ただければと思います。</p> <p>また、本日、教員採用試験の合格発表があったのですが、北海道の小学校の倍率は1.1倍でした。よほどのことがなければ、力がなくても多くの受験者が合格してしまう倍率です。今後、力のない教員が当別町へ入ってくる可能性もありますので、初任者研修を道教委だけに任せずに、町教委としても取り組んだほうが良いのではないかと思います。教員にとって、最初に入る学校は重要で、その教員の一生を決めるほどです。どこの学校で教員としてスタートするのかによって、その教員のやる気や伸びしろが決まってしまうとよく言われるので、もし当別町に初任の教員が入ってきた時には、みんなで関わりを持って、「当別町で勉強できて良かった」「当別町でスタートできて良かった」と思えるようにしてあげて欲しいと思います。</p> <p>1点だけ質問です。5頁の「5 改善策」【国語】①についてですが、「研究教科が「国語」であり、～」というのは、どういう意味なのでしょう。当別町全体で「国語」と決めているという意味でしょうか。</p> <p>各小学校において、校内研究教科を「国語」としているという意味です。各小学校では、昨年度までの学力調査の結果等を受けて、国語にまだまだ課題があると捉え、今年度、「国語」を校内研究教科として指定し、重点的に取り組んできております。</p>
<p>武岡代理</p>	<p>今回は「国語の勉強は好きですか」との問いに「当てはまる」と回答した割合が非常に低い様子ですが、今伺ったように校内研究教科として「国語」を指定していることで、来年度、同じ質問への回答の状況が改善されると良いなと思います。</p> <p>また、読書をするのが学力向上にとって非常に大切だと考えておりますので、幼稚園のころから読書が好きになるような取り組みを真剣に考えていく必要があるのではないかと思います。読書好きの子を育てることを目標にして、社会教育と連携しながら取組を進めることができれば、読書が好きな子ども、国語が好きな子どもが、やがて育っていくのではないかなと思います。</p>
<p>学校教育課参事</p>	<p>読書について、各学校の状況をご説明申し上げます。各学校では、授業前の約15分間、「朝学習」もあるので、週3日ほどですが「朝読書」の時間を設けています。また、学校では、図書委員会や町の司書を中心として、読書推進の取り組みとして、ポップを作成し、良本の紹介をする活動をしております。また、社会教育課においては、ブックファースト、ブックセカンドという、幼児期と小学校1年生の子どもに、本をプレゼントす</p>

	<p>る取り組みを行っております。</p>
<p>武岡代理</p>	<p>幼稚園の読書の状況などはわかりますか。</p>
<p>子ども未来課長</p>	<p>幼稚園では、子ども一人ひとりに毎月絵本をお貸ししており、毎日、幼稚園の先生が読み聞かせ活動を行っております。認定こども園おとぎのくについて、保育所であった昨年度までは、1クラスに1冊ずつ、毎月異なる絵本を置き、読み聞かせ活動を行っていましたが、認定こども園になった今年度からは、1人1冊、自分の本としてお貸しして、毎日読み聞かせを行い、さらに、その絵本を家庭に持って帰って、家庭内でも活用していただけるような形で取り組みを進めております。</p>
<p>武岡代理</p>	<p>要望になりますが、18頁の英語についての項目で、3段目「スピーチやプレゼンテーション」について弱いと示されておりますが、町独自で英語暗唱大会を企画するなど、自分で英文を考えて、人の前で発表する機会等を増やしてあげると良いのではないかと思います。</p>
<p>寺田委員</p>	<p>12頁4段目「学校のきまりを守っていますか」という問いに、「当てはまる」と回答した割合が、かなり低いのではないかと思います。子どもたちが守るべききまりとは具体的に何であるのか、守っていないきまりには、どのようなものがあるのか等についても、今後掲載していただけたら良いと思います。</p> <p>最近、アクティブ・ラーニングが推進されて、子どもたちが主体になるということを考えると、自分たちで守れるルールを作っていく動きをしても良いのではないかと思います。</p> <p>また、12頁の下で「ルールを守らせる指導」という表現が、アクティブ・ラーニングの「主体的で対話的な」という視点には、そぐわないのではないかと思います。</p>
<p>学校教育課参事</p>	<p>私自身、当別の子どもは、横断歩道では自転車を降りて渡るなど、規範意識が優れている子どもが多い印象を持っていたので、今回の結果は意外なものでした。自分に厳しく回答しているものなのか、どのようなきまりをもって回答したのかについては、今後確認してまいります。</p> <p>また、ご指摘の通り「ルールを守らせる指導」という記述は、アクティブ・ラーニングの「主体的で対話的な」という視点にはそぐわないと考えますので、訂正させてもらいたいと思います。</p>
<p>佐々木委員</p>	<p>全体的に成績が上がって良かったと思います。勉強時間が少なくなって</p>

<p>学校教育課参事</p>	<p>いるのは、要領良く学習をこなしているとも捉えられるかと思います。</p> <p>また、先ほどのきまりの話についてですが、最近の子どもたちは、極端に悪いことはしないと思いますし、この質問に関して言えば、平日頃から、きまりやルールについて考えて生活をしている訳ではなく、「きまりを守っていますか」と改めて聞かれて、控えめになってしまっただけではないかなと思います。</p> <p>次に、「その教科が好きですか」という趣旨の問いでは、中学校の国語にがグンと低いので、その点について、しっかりと対策をしていけば、数値も上げっていくのではと思います。</p> <p>1点確認です。各学校ごとの学力向上に関する改善プランは、ホームページ等で確認できるのでしょうか。</p> <p>各学校ごとの結果や改善プランは、今後ホームページで掲載される予定ですが、すでに出来上がっているものがありますので、後ほどお示いたします。</p>
<p>小林委員</p>	<p>資料が見やすく大変良かったです。</p> <p>1点申し上げると、9頁の改善が必要な項目として挙げられている「早寝早起き」の点ですが、塾や習い事をしている子どもも多く、ある日は早く帰ってこられる、ある日は帰りが遅くなる等、1日1日のリズムが異なり、仕方がないことだと思うので、この点に関しては、極端に深く考えなくても良いのかなと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>私からも1点意見です。10頁と21頁のICT機器の活用について、小学校では数値が高く活用されている印象を受けますが、中学校では数値が低く活用されていない印象を受けるので、中学校でのICT機器の活用について、学校へ確認しておくべきかと思います。</p>
<p>小林委員</p>	<p>当別町は、今回、管内で成績が1番良かったことや、ここ数年良い成績が続いているかと思いますが、今後、管内の視察研修や研究の対象になったりすることはあるのでしょうか。</p>
<p>学校教育課参事</p>	<p>管内からは視察研修の依頼等は来ていない状況です。学校の先生同士の研究大会等の中で、事例発表として、当別町の取組が話されることもあるかと思いますが、視察研修までという話にはなっておりません。</p> <p>ちなみに、石狩管内教頭会の研修会において、レポート発表というものがあり、今年度、当別中学校の小森教頭が「組織づくりをしっかりと行い、子どもたちの力を伸ばす」というテーマで、当別中学校の取組について話</p>

<p>小林委員</p> <p>教育長</p>	<p>してくださっています。簡潔に言えば、小中一貫教育推進講師等の様々な人材の活用等によって、子どもの力を伸ばすことができたという内容でお話いただきました。</p> <p>当別町の教育をもとに視察研修等が行われて、当別町に転勤してきたいという先生がもっと増えて欲しいなと思います。</p> <p>他にございませんか。</p> <p>なければ、質疑を打ち切り、報告第1号は原案のとおり承認してご異議ございませんか。</p> <p>(「異議なし」の声)</p> <p>異議なしと認め、委員全員の賛成を得ましたので、報告第1号は原案のとおり承認致しました。</p>
<p>【日程第2】</p> <p>教育長</p>	<p>日程第2、議案第1号を上程致します。</p> <p>提案の説明を求めます。</p> <p>教育部長。</p>
<p>教育部長</p>	<p>(提案の説明)</p> <p>只今、議題となりました議案第1号当別町立西当別小学校・西当別中学校区域学校運営協議会委員の委嘱につきまして、提案の説明を申し上げます。議案の2～4頁、別冊の27頁をご高覧下さい。</p> <p>新たに令和元年11月1日から当別町立西当別小学校・西当別中学校区域学校運営協議会委員に、石田 洋三(いしだ ようぞう)氏をはじめ、21名を委嘱するものです。</p> <p>よろしくご審議をいただきますよう、お願いいたします。</p> <p>なお、詳細につきまして、学校教育課参事から説明いたします。</p>
<p>学校教育課参事</p>	<p>ご説明申し上げます。</p> <p>別冊27頁の「当別町立西当別小学校・西当別中学校区域学校運営協議会新旧委員名簿」をご高覧ください。</p> <p>この度の当別町立西当別小学校・西当別中学校区域学校運営協議会委員の委嘱につきましては、先月の第5回教育委員会定例会におきまして、議案第1号当別町立学校運営協議会の運営等に関する規則の一部を改正する規則制定を上程した際に、ご説明しましたとおり、委員の任期を学校の経営方針のスタートに合わせるため、委嘱期間を令和2年3月31日までの5ヶ月間としております。</p> <p>これまで委員を担っていただいた、新森 道博(しんもり みちひろ)</p>

	<p>氏と開沼 文孝（かいぬま ふみたか）氏の2名が退任、新たな委員として、上杉 堯央（うえすぎ たかあき）氏、須藤 孝明（すどう たかあき）氏、小貫 幸恵（こぬき ゆきえ）氏の3名を選任しようとするものです。上杉氏は、現在、認定こども園「おとぎのくに」の父母会長、須藤氏は、西当別小学校PTAの副会長、小貫氏は、西当別中学校PTAの会計を務めていらっしゃいます。その他、吉野裕宜（よしの ひろのり）氏が、お子さんの卒業に伴いまして、第2号委員「対象学校に在籍する生徒・児童又は幼児の保護者」から、第1号委員「対象学校の所在する地域の住民」に選任区分を変更し、今後も西当別地区の学校運営協議会に参画することとしております。</p> <p>以上です。</p>
教育長	ただ今、提案説明がありましたが、ご質問等はございますか。
武岡代理	委員の中に、町内会関係の方はいらっしゃいますか。いらっしゃれば役職等もお教えてください。
学校教育課参事	石田洋三氏が太美北町内会の会長を務めていらっしゃいます。また、この太美地区の町内会連合会の事務局も務められております。
武岡代理	西当別地区のコミュニティ・スクールの動きが鈍い印象があり、それは「町の中の学校」という位置づけが薄いからだと捉えております。もっと町内会との連携を図って行っていただければと思います。
学校教育課参事	今、いただいた要望につきましては、西当別地区の学校運営協議会の中で、検討していただくように働きかけてまいりたいと思います。
寺田委員	いろいろな町内会の方がもっとバランスよく委員として入れるようにしていただければ良いなと思います。
学校教育課参事	学校運営協議会は、もともと学校評議員だった方が入って、立ち上げられた経緯があり、町内会のバランス等は取れていない状況です。今後、委員のバランスについても事務局と調整しながら、進めてまいりたいと思います。
教育長	他にございませんか。 なければ、質疑を打ち切り、議案第1号は原案のとおり決定してご異議ございませんか。

	<p>(「異議なし」の声)</p> <p>異議なしと認め、委員全員の賛成を得ましたので、議案第1号は原案のとおり決定致しました。</p>
<p>【閉会の宣言】</p> <p>教育長</p>	<p>以上で、本日の日程は、全て終了致しました。</p> <p>令和元年第6回当別町教育委員会定例会を閉会致します。</p>
<p>教育長</p>	<p>次回の定例会の日程であります、令和元年11月27日(水)午後2時30分から役場3階中会議室での開催を予定していますので、よろしくお願ひします。</p> <p>以上で、全てを終了させていただきます。お疲れ様でした。</p>

閉会 午後3時00分